

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : カリフォルニア州立大学フレズノ校

留学期間 : 平成 25 年 8 月 22 日 ~ 平成 29 年 5 月 22 日

今年の夏休みはアメリカに留学して初めて日本に帰国しました。帰国期間も今までで最長の 7 週間でした。最初の一か月間は東京の府中市にある国連アジア極東犯罪防止研修所（アジ研）でインターンシップをさせていただきました。私の学部のプログラムでは卒業をするためにはインターンシップをすることが必須で、以前から教授に話を聞いていたアジ研なら世界各国の刑事司法関係機関の職員が集まるため、一つの犯罪でも違った角度から研究するための勉強が出来るかなと思い、自分でコンタクトをとりました。私が夏休みで日本に帰れる期間中にちょうど「被害者あるいは証人としての児童をめぐる諸問題についての国際研修」が行われていて、先学期に私はポルノの研究をしていてこれからは児童ポルノについても勉強していきたいと思っていたのでアジ研の教官の方もちょうど興味のあるエリアなのだからぜひインターンシップをして勉強しにおいでと言ってくださいました。インターンとしての主な活動内容は研修の運営のために教官、事務官の方たちのお手伝い、通訳、研修参加者が書きリサーチペーパーの添削、アドバイスでした。このインターンシップが決まった時に思ったことは自信がないことを理由に躊躇しないということです。とりあえず、まずは一歩動いてみてどのようなオプションがあるのかを探ることが大事だと思います。私もまずはダメ元でいくつか他の機関にもインターンシップをお願いしてみました。アジ研もどうせ無理だろうなという気持ちで応募したところインターンとして採用してもらい、正直自分でもびっくりしましたし、推薦して頂いた教授もびっくりしていました。インターン中にアジ研の教官が教えて下さったのですが、もともとアジ研にインターンシップのリクエストを応募してくる人はごくわずかなようです。大学に志願する際や、バイトなどの面接の時でも、ダメ元でも先方に連絡を取ることで始まるコネクションがあるということを今回のインターンシップで再確認しました。もちろん、なんでもかんでも応募してもダメだと思います。今回は先学期に行ったポルノについての研究がきっかけでインターンが出来たことはもちろん、英語と日本語でのアカデミックレベルの会話が出来るというポイントのおかげで採用していただきました。インターンシップの中で一番の思い出は研修参加者に対してポルノと男女平等の相関性についてレクチャーをさせて頂いたことです。研修参加者の方たちは実際に現場で何年も働いていらっしゃる警察官、検察官、裁判官、そして行政担当の方ばかりで緊張しましたが、同じ研究結果を学校で教授たちの前で発表していたので、今回はポルノや犯罪学についての背景知識があまりない人たちにどうしたら私の研究に興味を持ってもらえるかということに集中してパワーポイントを作りました。私は将来、犯罪学関連の研究を行い、犯罪抑止のプログラムを作っていきたいと思っています。そのためには政府の人に自分の研究に興味を持って貰うことは必要不可欠です。今回のアジ研では 20 カ国以上からの参加者に自分のプレゼンテーションを聞いてもらい、フィードバックも頂けたので、次の機会にむけて役立てたいと思います。文章では表すことが出来ないほど、今回のインターンシップは自分のためになりました。これから留学される方や、現在留学をされている方はぜひインターンシップを一度はすることをお勧めし

ます。特にアメリカでは長期でのインターンシップが可能なため、より多くの事が学べると思います。日本ではまだまだインターンシップという言葉が浸透していないように感じます。インターンシップをする際には事前のリサーチをしっかりとすることが必須で、私はアメリカに来て 2 学期目くらいから色々な教授にお話を聞いたり、自分で、オンラインで検索したりして、インターンシップの候補を数個リストアップしていました。暇な時にオンラインショッピングをするような感覚でいいと思うので余裕をもって色々な企業や機関について調べると後で後悔しない、充実したインターンシップが出来ると思います。

留学のアカデミックな面とは少し関係ありませんが、カリフォルニアに来て 3 年で自分の価値観がかなり変わったと最近気づきました。特に変化が見られるのは買い物をする際の行動です。読んだ記事や周りの友達の影響でごみを減らすために工夫をするのが最近の日課です。スーパーに行く回数を減らしてファーマーズマーケットに行き、マイバッグはもちろん持参、そして自分のタッパーなども持って行って買い物をする習慣がついています。特にカリフォルニアではこういうことを普通に出来るし、自分の容器を持参すると割引がきくお店もあります。アメリカの生活は日本でのとは比べてかなり不便で、欲しいものがすぐ手に入らないことが多々あります。こういう不便な生活が嫌で日本に帰りたいと言っている日本人学生は私の周りにたくさんいます。私も最初はそうでした。特にフレズノはレストランが閉まるのが早かったり、お店の品ぞろえが悪かったりするので、その不便さが好きではありませんでした。でも今では日本のほうが逆に異常に便利なのだなと思いはじめました。そしてそのうえで便利さゆえのコストなどを考えた結果、私は今の少し不便な生活にとっても満足しています。カリフォルニアというアメリカの 50 州の中でも先進的な考えを持つ州で生活をして、エコの面からみて自分の行動に責任を持つことを日々、周りの人などから学んでいる気がしています。この 3 年間で、大学を選ぶ際には分からなかったアメリカの州民生、やそれぞれの土地の雰囲気をしりわかったりしたので、大学院を選ぶ際には大学という機関の性質だけでなく、自分のしたい生活が出来るかどうかにも考慮していきたいと思います。